

## 英字新聞の見出しはむずかしいか

松浦 明

### Are English Newspaper Headlines Difficult?

MATSUURA Akira

#### 《Summary》

This paper discusses, from various points of view, the multiple difficulties involved in reading and understanding English newspaper headlines, and suggests some ways to utilize them as teaching materials.

#### はじめに

私は1998年以来本学で英語を教えてきたが、そのテーマはほとんどが英字新聞を用いての時事英語であった。私はそれ以前から高等学校の選択講座で時事英語をとりあげてはいたが、大学では、大学生の知的レベルに見合ったより高い内容の記事をめざして今日までつづけてきた。時事英語教材を一番すぐれた教材という人がいるが、私はその立場をとらない。その教材の魅力はじゅうぶんわかっているつもりでもそれがいろいろな面から考えて一番よいとは思わないからである。ちょうど食事のメニューとおなじように教材にはそれぞれの特色があり、それらが相補って学生の英語の力をつけていくのである。時事英語

教材の特色は2つある。その1つは、なんといっても現在世界でそして日本でおこっている多種多様のできごとをとりあげてそれを学生に考えさせることができるという点で、これは時事英語教材でなければなしえないことである。もう1つは英語の最先端のありのままの姿を学生に示すことができるという点で、これも英字新聞ならではの特色といってよい。

これまで私はこの語学論叢に何回か時事英語教材についての論考を書いてきたが、今回は教材として魅力に富む英字新聞の見出しを理解することにとまなう困難さをとりあげる。それをさまざまな角度から分析し、それを克服するための対策と教材としての可能性もさぐってみることにしたい。

## むずかしさの分析

英字新聞の見出しがむずかしいかどうかについては、実は答えるのがむずかしい。1つだけいえることは、あくまでも見出しの約束を理解したうえでのことだが、やさしくて中学生でもすぐにわかる見出しから、数十年英字新聞にしたしんでいる私でさえ理解するのがむずかしい見出しまで、その差が非常に大きいということである。ここではそのうちむずかしいほうをとりあげることになる。

もう1つ確認しておかなければならないのは、だれが見出しをむずかしいととるかである。見出しを読みなれている native でもむずかしいと感じることがあるらしいが、ここでは私が授業で接しているような、英字新聞の見出しを読みなれていない日本人大学生としておく。

それでは、英字新聞の見出しの困難さはどこからくるのであろうか。私はそれを2つに分けられると考えている。その1つは語学的な理由によるもので、見出しに使われている単語や構文などがわからないことから生じるが、これは比較的簡単に解決できる。見出しという性質から必然的に生じると考えられるあいまいさによるものもあるが、こちらはさまざまな問題をはらみ、なかなかやっかいである。

もう1つは、英字新聞にかぎらず新聞というものの性質から、人間にかかわるありとあらゆる事柄がとりあげられる以上、記事によってはわかりにくさが生じる。私達は新聞に書かれた記事をすべて読むわけではない。しかしそれでも、読む記事の理解度はその内容によって大きくことなるはずだ。自分にあまりなじみのない記事の見出しは当然のことながらむずかしいと感じる。

これからこれらの2つの要因に沿ってそれらをさらに16の項目にわけて分析をすすめていくことにする。引用する見出しは主として2004年の *International Herald Tribune* と *The Asahi Shimbun* からとり、一部そのほかの新聞からの引用もある。以下の引用において、*International Herald Tribune* は *IHT*、*The Asahi Shimbun* は *Asahi* と略記する。

## 見出しの型

私は英字新聞の見出しを4つの型に分類しており、それをかならず1年間の授業のはじめのほうで英字新聞の読み方の説明の一部にくわえている。前期は比較的やさしい記事を取りあげて読ませるが、見出しの読み方もくりかえし練習して見出しになれさせる努力もする。その見出しの4つの型を次にあげる。

- 1型 私が完全な文とよんでいる型で、主語、動詞、目的語、補語など文のおもな要素が一応そろっているもの。重要な記事の見出しはこの型と考えるとよい。どれが述語動詞か見きわめることができればこの型の見出しはさほどむずかしくはない。
- 2型 **be** 動詞の省略されたもので、この型がもっともむずかしい。この2型はさらに次のように細分化される。
  - ①主語と補語がならぶもので、補語は名詞と形容詞と2つの場合がある。
  - ②主語と過去分詞形がならぶ、受身の **be** 動詞の省略されたもの。
  - ③主語と～**ing** 形がならび、現在進行形の **be** 動詞の省略されたもので、現在進行している事柄や予定をあらわす。

④主語と to 不定詞がならび、be+to 不定詞で予定をあらわす表現のうち be 動詞が省略されたもので、英字新聞の見出しにはよくみられる。

3型 名詞を中心とする見出しで、その名詞の前やうしろにさまざまな修飾語（句）をともなう。この型は理解するのに困難さはない。社説や週刊誌の見出しに多い。

4型 上の3つの型に属さないもので、もっとも多いのが副詞句のみの見出しであり、ほかに主語が省略されていきなり動詞が最初に出てくるものなどがある。副詞句のみの見出しは英字新聞ではまれであるが、週刊誌では比較的よくみられる。

見出しの型の例を次にあげる

#### 1型

- (1) Language expert wants Japan to stop inventing 'English' words (*Asahi*, Apr. 24-25)
- (2) Expos made world of difference for art (*Asahi*, Jul. 23)

この型はふつうの英語の文章にもっとも近く、重要なニュースの見出しにはこの型が使われると考えてよい。(1)は最初に不定冠詞を補えばふつうの文章になる。(2)は私が遠い過去とよんでいる、made という過去形を使っているが、次の2型の be 動詞の省略と考えてはならない。記事で確認すればまちがいはふせげる。

#### 2型

- (3) Supporter apathy root of LDP difficulties (*Asahi*, Jul. 5)
- (4) Overseas Vietnamese now major factor (*THE NIKKEI WEEKLY*, Sept. 13)
- (5) Americans guilty in Kabul jail case (*IHT*, Sept. 17)
- (6) Food self-sufficiency target too high (*Asahi*, Sept. 17)

(3) と (4) は補語が名詞なので見出しの意味がとりにくく、(5) と (6) は補語が形容詞であるからはるかにわかりやすい。

(7) North Korea blast reported (*THE DAILY YOMIURI*, Sept. 14)

(8) Yokota daughter said free to move to Japan (*Asahi*, Jun. 15)

(9) Citibank Japan told to close four offices (*The Japan Times*, Sept. 18)

受身の be 動詞が省略されて主語と過去分詞がならぶ例のうち (7) のような例はすぐ理解できる。「爆発が報告した」ということはありえないからだ。しかし (8) と (9) のように said や told の前に be 動詞が省略されたかたちをみると初心者にとまどう。ましてや (8) のように主語が人間の場合はつい said を過去形にとりたくなる。

be 動詞が省略されて主語と～ing 形がならぶ例は 1 つだけあげておく。

(10) Islamic influence growing in Malaysia (*THE NIKKEI WEEKLY*, Sept. 13)

### 3 型

(11) Work and leisure in Europe (*IHT*, Aug. 21-22)

(12) EU's rich vs. newest members (*IHT*, Sept. 11-12)

(13) 500-millionth passenger at Narita (*Asahi*, Sept. 21)

なんのむずかしさもあいまいさもなく、きわめてわかりやすい。

### 4 型

副詞句の例を 2 つあげるが、いずれもスポーツ記事の見出しで、このような見出しはスポーツ記事に比較的よくみられる。ただし、たとえやことばのおもしろさをねらったものもみられるので注意を要する。

- (14) In the spotlight and under a cloud (*IHT*, Aug. 21-22)  
(15) From nobody to hero to has-been? Warner tries to rise again (*IHT*, May 31)

それでは、これからむずかしい見出し、あいまいな見出しを16の項目にわけ  
てみていくことにしよう。

## 1. みじかい語

よく見出しに使われるみじかい語の例として、tap, tip, top と call, hold をあ  
げることができるが、次はそれらをふくむ見出しである。このような単語につ  
いては、cotext からそこで使われている意味を正確につかむことが大切である。

- (16) Kirin taps into ancient Egypt (*Asahi*, Sept. 18-19)  
(17) More firms tap outside directors (*THE NIKKEI WEEKLY*, Sept. 13)  
(18) Hori tipped as Fuso chairman (*Asahi*, Apr. 21)  
(19) Minshuto tops LDP in support ratings (*Asahi*, Jul. 15)  
(20) Yangon protests British call in favor of Aung San Suu Kyi (*IHT*, May 31)  
(21) EU report calls for revamped security plan (*IHT*, May 17)  
(22) Calling on a new model to sell Internet access (*IHT*, May 15)  
(23) TAPE: Recorders call out to specialized markets (*IHT*, May 15)  
(24) Italy holds suspects in Spain blasts (*IHT*, Jun. 9)  
(25) Japan held to 1-1 tie in Greece (*Asahi*, Apr. 23)  
(26) Rockets hold on to down Toshiba (*Asahi*, Feb. 23)  
(27) China's car buyers hold out for better deals (*IHT*, Aug. 11)

## 2. 略語・短縮語などの簡略表現

私は英語の簡略化された表現にとくに関心をもち、さまざまな角度から研究

しているが、英字新聞の見出しからもその一端をうかがい知ることができる。EU、WTO などの略語や *champ(ion)*、*(heli)copter* などの短縮語はごくふつうに用いられる。このような表現はたしかにみじかくて便利ではあるが、なれない読者にはわかりにくいかもしれない。

- (28) Something's burning in home ec class (*Asahi*, Apr. 24-25)
- (29) Mayo firm linked to illicit hires (*Asahi*, Jun. 9)
- (30) Floodwaters free gator from zoo (*The Japan Times*, Sept. 18)
- (31) NPA stats stress foreign crime rise (*Asahi*, May 12)
- (32) U.K. takes lead role in stem cell research (*IHT*, Aug. 23)
- (33) National university hospitals short cash for doctor overtime pay (*Asahi*, Jul. 19)
- (34) Is natural gas headed the way of oil? (*IHT*, Aug. 21-22)
- (35) Thinking one step ahead as rates rise (*IHT*, Jul. 8)
- (36) Injured or not, Dodgers put Nomo on 15-day disabled list (*Asahi*, Jul. 3-4)

(28) の *ec* はリードに省略形でない *economics* があるし (29) の省略されない *mayonnaise* も記事の中ですぐにみつかる。(30) の *gator* や (31) の *stats* が何の短縮形かを学生に推測させるのもおもしろいだろう。(32) の *lead* は形容詞の *leading* の短くなったかたちで、(33) (34) (35) は前置詞を必要としない簡略表現といえる。(36) は *whether~or not* の短縮されたかたちである。

### 3. 語句の一部の省略

英字新聞の見出しには、よく用いられる語句の一部を省略することがあり、なれない読者はとまどうであろう。記事を読んでみることで、そして読みなれることが決めてである。

- (37) Bush shifts stance on warming (*IHT*, Aug. 27)
- (38) Crude slips from highs on oil flow from Iraq (*IHT*, Aug. 9)
- (39) Europe rejects looser label for modified food (*IHT*, Sept. 10)
- (40) Kawasaki Heavy may spin off unit (*IHT*, Aug. 31)

(37) は warming は global warming のこと、(38) の Crude は Crude oil、(39) の modified は genetically modified、(40) の Kawasaki Heavy は Kawasaki Heavy Industries をそれぞれ意味する。

#### 4. 自動詞化

他動詞によく使われる動詞が自動詞のように用いられると、目的語として何を補ったらよいかを考えなければならずあいまいさ、わかりにくさを感じさせることがある。context と記事がヒントになる。

- (41) Chinese think locally, draw globally (*IHT*, Sept. 13)
- (42) World's tallest building slowly fills (*IHT*, Sept. 15)

#### 5. 新語

あたらしい単語が登場するのはまず新聞の紙面である。ITやEUに関するあたらしい単語がこれからもうまれてくるであろう。

- (43) In Estonia, e-banking, e-commerce, e-government (*IHT*, Sept. 13)
- (44) In Estonia, an e-reality is thriving (*IHT*, Sept. 13)
- (45) iGeneration will not fight for Queen and country (*THE TIMES*, Sept. 19)

(44) は、(43) の見出しのついた記事がほかのページにもつづいており、そのつ



づきの記事の見出しである。

## 6. 人名・社名

人や会社の名前もとまどいのもとになりうる。

- (46) Rice focused at first on traditional threats (*IHT*, Apr. 6)
- (47) Is Gates playing games on Nintendo? (*IHT*, Aug. 6)
- (48) Neptune surges amid bid speculation (*IHT*, Aug. 5)
- (49) Proton looks abroad to survive (*IHT*, Aug. 25)
- (50) Great Wall plans to expand in an overcrowded market (*IHT*, Aug. 31)
- (51) Apple opens iTunes to 3 European countries (*IHT*, Jun. 16)
- (52) Shares gain as Origin buys stake (*IHT*, Jul. 22)
- (53) Prudential ends bid to sell bank (*IHT*, Aug. 4)
- (54) Prime buying control of New Zealand's Powerco (*IHT*, Aug. 10)
- (55) McDonald's credits ads as its sales rebound (*IHT*, Jun. 25)

(46)(47) は Rice と Gates が人の名前である。会社名の例のうち (48)(49) は context で普通名詞ととることはまずありえないし、(51)のApple も background の知識が役にたつ。(52) のように見出しの途中に大文字ではじまる表記はわかりやすい。(53) と (54) は Prudential と Prime を形容詞ととってしまうと次につづく単語ともかからんで混乱をひきおこす。(55) は apostrophe がくせもので、次の credits を動詞ととることに障害となる。

## 7. フランス語

外国語の例はフランス語の見出しを4つあげる。辞書ですぐ解決がつく。

- (56) A fait accompli aimed at wider SDF activities abroad (*Asahi*, Jun. 10)

(57) Kirsten Dunst puts the ingénue behind her (*IHT*, Sept. 17)

(58) Naiveté belies arduous work (*Asahi*, Sept. 17)

(59) A poisoned ‘j’accuse’ from America (*IHT*, Sept. 21)

## 8. 国に関する表現

国や国民に関する表現もよく読まないとまちがえやすい。

(60) Pakistani vows peace talks with India (*IHT*, Jul. 21)

(61) Dutch report terror arrests in July (*IHT*, Sept. 16)

(60) の Pakistani、(61) の Dutch はそれぞれ主語になっているが、このような単語は形容詞にも使われるので次につづく名詞らしき単語を修飾する形容詞と誤解しないよう気をつけなければならない。

## 9. 品詞の転換

品詞の転換をここでは、学生がその単語の品詞と考えているのとはちがった品詞に使うこととする。見出しにはこれが非常にひんぱんに用いられる。たしかにスペースの節約になることはたしかであるが、それだけではなく、このようなみじかく簡潔な表現はパンチのきいた、イメージをほうふつとさせる見出しとして有効である。学生にとっては理論的にむずかしいことは何もなく、要求されるのは頭の切りかえ、柔軟な発想だけである。英語ならではの柔軟性を感じさせるよう私はあえて品詞の転換をふくむ見出しをとりあげてその説明をする。もっとも多くみられるのは名詞から動詞への転換であり、そのほかの例はすくない。動詞から名詞への例として (62) に **give** をふくむ見出しをあげておいたが、**feel**、**meet**、**take** なども名詞に用いられる。形容詞から動詞への転換例も数はかぎられているが、**narrow**、**ready**、**slow** はよく使われる。

- (62) Diplomat sees no give in North Korean stance (*IHT*, Aug. 20)
- (63) Walkers brave typhoon on earthquake survival walk (*Asahi*, Sept. 18-19)
- (64) Ohka bests Matsui (*Asahi*, Apr. 21)
- (65) Matsui doubles to help Yankees rally past Orioles (*Asahi*, Aug. 3)
- (66) Pistons even the series (*IHT*, May 26)
- (67) U. S. ups heat on Chinese piracy (*The Japan Times*, Sept. 18)
- (68) USA downs Japan (*Asahi*, Aug. 10)
- (69) Amazon and toymaker trade lawsuits (*IHT*, Jun. 30)
- (70) Bush will not tango with Kim (*Asahi*, Jun. 15)
- (71) Typhoons storm to June record high (*Asahi*, Jul. 5)
- (72) WTO rules for Brazil in sugar dispute with EU (*IHT*, Aug. 6)
- (73) Shipbuilders gain as global trade powers on (*IHT*, Jul. 19)
- (74) 'Satchi' pens a doggie morality tale (*Asahi*, Apr. 24-25)
- (75) Embassies partying on taxpayers' tab (*Asahi*, Apr. 24-25)
- (76) Pioneer pairs language skills with insight (*Asahi*, Sept. 14)
- (77) Government maps outline for postal privatization (*Asahi*, Aug. 10)
- (78) Pension law clouded by railroading (*Asahi*, Jun. 7)
- (79) Taiwanese director films homage to Yasujiro Ozu (*Asahi*, Sept. 18-19)
- (80) Matsui's homer keys rally (*Asahi*, Jun. 15)
- (81) 2 mortar shells land inside SDF camp (*Asahi*, Aug. 12)
- (82) Inns sponge spa price for tap-water baths (*Asahi*, Aug. 12)
- (83) Aping for art's sake (*Asahi*, Sept. 18-19)

(63) の brave が述語動詞になっている。形容詞、副詞などに用いられる単語が動詞に用いられている例が (64) (65) (66) (67) (68) である。学生は ups や downs のようなかたちをみたらびっくりするであろう。ただし私はこのような表現は英語を書くときに使わないよう注意を喚起する。(69) から (83) まだが名詞から動詞への転換例である。(71) は主語の Typhoons に縁語の storm という動詞を用いている

が、さらに **record high** にも品詞の転換がみられる。**record** は形容詞、**high** は名詞である。(72) の述語動詞は **rules** であるが、うっかりすると名詞ととりちがえてしまう。(74) と (75) の **pens** と **partying** はイメージを喚起する例である。(77) は **maps** が述語動詞であるが、次の名詞の **outline** も見出しでは動詞としてよく使われる。(78) には **clouded** と **reilroading** に名詞から動詞の転換例がみられる。(79) はあいまいで、**films** がポイントである。すなわち、**films** を名詞とるか動詞ととるか、前者なら **be** 動詞が省略されて主語と補語がならんでいる 2 型であるが、ここでは **films** が述語動詞の 1 型である。(80) は **keys** を動詞として用いているが、**homer** も動詞に使われることがあり、英語の柔軟性を感じさせる。(82) では温泉が話題になっているので、その縁語である **sponge** を述語動詞にしているが、この使い方にもイメージがともなう。(83) はチンパンジーが絵を描くことをとりあげた写真の説明のキャプションにつけられた見出しで、**ape** を **~ing** 形にしている。

## 10. 過去分詞

次に過去分詞にかかわる見出しを 3 つあげる。

(84) Detained at the pleasure of John Ashcroft (*IHT*, Aug. 14-15)

(85) A hunt for nuclear waste dumped in Moscow (*IHT*, Aug. 11)

(86) U. S. still paying Iraqi group doubted by CIA (*IHT*, Mar. 12)

(84) は最初いきなり過去分詞が出てくる例でその前に主語と **be** 動詞を補う。(85) と (86) は **dumped** と **doubted** が前の名詞を修飾する過去分詞と理解できるかがカギである。

## 11. ~ing 形

~ing 形は名詞、現在分詞、動名詞に用いられるが、さらに現在分詞にいくつかの用法があるために見出しの意味をとりにくくしたり、あいまいさを生じさせる要因となりうる。注意しなければならない。その解決法は context と記事を読んでみることに つきる。

- (87) Malaysia plans spending cuts to trim deficit (*IHT*, Sept. 13)
- (88) Koizumi's trip a poor showing rich in meaning (*Asahi*, May 27)
- (89) PeopleSoft issues earnings warning (*IHT*, Jul. 9)
- (90) Ruling a win for freedom of expression and a warning of its limits (*Asahi*, Apr. 5)
- (91) The perfect summer dish for those 'eeling from the heat (*Asahi*, Jul. 22)
- (92) Elpida plans ¥500 billion plant to be leading DRAM supplier (*Asahi*, Jun. 10)
- (93) Keeping focus critical in 15-day tourney (*Asahi*, Jul. 16)
- (94) Braving the heat for history (*Asahi*, Jul. 24-25)
- (95) Killing some time, exercising the brain (*IHT*, Apr. 3-4)
- (96) Sending money home using only a cellphone (*IHT*, Aug. 9)
- (97) Spray cans warming planet, one dust-busting puff at a time (*Asahi*, May 27)

(87) の *spending*、(88) の *showing*、*meaning* は名詞である。(89) は ~ing 形のついた名詞がならんでいる。(90) は *be* 動詞が省略されて主語と補語がならんだ見出しで *Ruling* も *warning* も名詞である。(91) の 'eeling は *reeling* の *r* を省略したかたちと考えられ、前の *those* (=people) にかかる。(92) の *leading* は前の *be* とともに進行形を形成しているようにみえるが、context から形容詞ととるべきである。(93) から (96) までのように ~ing 形が見出しの最初にあると意味がとりにくくなる。動名詞ととるか主語と *be* 動詞をその前に補って現在進行形の一部ととるかなどの可能性があるが、(94) (95) (96) はそのどちらにとっても意味に大

きなちがいは生じない。(96)で問題にしたいのはあとに出てくる～ing形で「～を用いて」ととれる。

## 12. to 不定詞

名詞+to 不定詞も問題をふくんでいる。(98)はあきらかに不定詞の形容詞的用法で前の Move を修飾しているが、(99)のような例では(98)のような形容詞的用法なのか名詞のあとに be 動詞を補って考えるべき2型なのかまようことがある。意味にさほど大きなちがいはないが、あいまいさはぬぐえない。

(98) Move to decentralize (*Asahi*, May 28)

(99) A joint plan to help the Greater Middle East (*IHT*, Mar. 15)

## 13. 主語＋名詞の補語

次に2型の見出しのうち be 動詞が省略されて主語と名詞の補語がならんでしまう見出しの例を示す。これはただ名詞がいくつかならんでいる3型とみわけるのがむずかしく解決法は context に大きく依存するが、記事を読むことも助けになる。主語と補語の切れ目を見つけることがポイントであることはいうまでもない。(103)のように a という冠詞が1字あるだけで理解度はグンと増す。

(100) Pipeline to foreign community key (*Asahi*, Jun. 1)

(101) 'Pretentious cutie' remark last straw (*Asahi*, Jun. 5-6)

(102) Police: Tax-fund misuse routine (*Asahi*, Sept. 14)

(103) Guidelines a Net gain for elderly, disabled (*Asahi*, Apr. 18)

(104) What price beauty? The paradox of art (*IHT*, Apr. 31)

## 14. S V O Cの受身

S V O Cの型をとる動詞が受身形となりその be 動詞が省略されるとあたかも動詞が過去形の S V Oの型と見た目には区別がつかなくなるが、英字新聞の見出しにあまり用いられない過去形は私が遠い過去とよんでいる事柄をあらわすので、見出しの内容から判断して近い過去の事柄の be 動詞の省略されたかたちをとることは context も参考にすればさほどむずかしくはあるまい。読みなれてくるとさらに理解は容易となる。

- (105) New carriers awarded 20 slots in Haneda airport reshuffle (*THE NIKKEI WEEKLY*, Sept. 13)
- (106) Explosion called part of work on dam (*IHT*, Sept. 14)
- (107) Police granted more access to U. S. troops (*Asahi*, Apr. 3-4)
- (108) Chinese student groups offered visa-free travel (*IHT*, Jul. 6)

## 15. ことばのおもしろさ

ことばの遊びは *The Asahi Shimbun* がとくに好み、前身の *Asahi Evening News* のころから変わっていない。次にいくつかのことばの遊び、ことばのおもしろさをねらった見出しを引用する。

- (109) The land of rising temperatures (*Asahi*, Aug. 10)
- (110) Job losses: a tale of two unions (*IHT*, Jun. 16)
- (111) Silver cloud of world economic growth has dark lining (*Asahi*, May 31)
- (112) The more faces the merrier with video chat software (*THE NIKKEI WEEKLY*, Sept. 13)
- (113) Baseball talks again heading to the bottom of the 9th inning (*Asahi*, Sept. 17)
- (114) Typhoon's tasty windfall (*Asahi*, Sept. 10)

- (115) Vivacity, verve, vibrancy, Vivier (*IHT*, Apr. 6)
- (116) Playful portrait snaps up photo prize (*Asahi*, Apr. 3-4)
- (117) Japanese firms see a bloom, if not a boom (*IHT*, Jul. 2)

(109) は日本の猛暑の夏を報じた記事の見出しで (110) は *A Tale of Two Cities* のもじりである。(111) と (112) はことわざのもじりで (113) は野球用語を野球に関する記事の見出しにたとえとして使っている。(114) は台風で落ちたリンゴを安く売る話で windfall を2つの意味にかけている。(115) (116) は alliteration (117) は rhyme の例である。このような見出しのおもしろさが学生には最初のうち通じにくい。

## 16. 複雑な見出し

次に複雑な見出しの例をあげる。

- (118) Public firmly in the princess' corner (*Asahi*, Jun. 5-6)
- (119) In India, a new hip working class (*IHT*, Feb. 23)
- (120) China's leadership right to quell protest, Lee says (*IHT*, Aug. 18)
- (121) Ruffled finish to the Games (*IHT*, Aug. 31)
- (122) Close encounters in Uganda (*IHT*, Jul. 9)
- (123) Some doubt Novartis's sincerity on Aventis bid (*IHT*, Mar. 16)
- (124) Young face lonely bid for asylum (*IHT*, Mar. 29)
- (125) March for rights (*IHT*, Jul. 2)
- (126) Foreign reserve gains and falling debt cited (*IHT*, Aug. 27)
- (127) Kerry gets a low bounce but increased approval (*IHT*, Aug. 4)
- (128) Businessman's poor English leads to handcuffs, delayed flight in U. S.  
(*Asahi*, Aug. 4)
- (129) Japan's No. 1 advances in singles and doubles competition. (*Asahi*, Aug. 19)
- (130) Texas tops hit parade in the AL (*IHT*, Jul. 10-11)



- (131) Kremlin orders fire sale of Yukos unit (*IHT*, Jul. 21)
- (132) Kenya fights land seizure by the Masai (*IHT*, Aug. 26)
- (133) Industries fuel rise in Japan's power output (*IHT*, Jul. 15)
- (134) U. S. report savages testing plan for mad cow (*IHT*, Jul. 15)
- (135) Bill offers needed support to the learning disabled. (*Asahi*, Aug. 19)
- (136) KURDS: Displaced rush to retake Arab lands (*IHT*, Jun. 21)
- (137) Chinese work Russian land (*IHT*, Jul. 8)

(118) は **Public** が主語で **be** 動詞が省略されている。(119) は 3 型ととる。 **right** のようにいろいろな品詞をもつ単語は要注意で、(120) では形容詞で補語になっている。(121) のように **-ed** のかたちが最初にくるのも意味がとりにくいがここは **Ruffled** が過去分詞で次の名詞の **finish** を修飾している 3 型である。(122) の **close** もいろいろな意味をもつやっかいな単語である。この見出しでは形容詞で次の名詞の **encounters** を修飾しているやはり 3 型である。(123) (124) は **Some doubt** と **Young face** をどうとるかだが、これが主語と述語動詞になっている。(125) のような見出しは意味があいまいで、主語が省略されて動詞の現在形が最初にきているとも、命令形とも、3 型の名詞中心の見出しともとれる。(126) は **cited** の前に **be** 動詞を補う。次の (127) と (128) は **increased** と **delayed** が問題だが、過去分詞でそのうしろの名詞を修飾している。そのあとにつづく例はどれが述語動詞かをつかむことがポイントで、それをとりちがえると見出しの意味がつかめなくなってしまう。(129) は **advances**、(130) は **tops**、(131) は **orders**、(132) は **fights**、(133) **fuel**、(134) は **savages**、(135) は **offers**、(136) は **rush**、(137) は **work** がそれぞれ述語動詞である。

### 理解困難な見出しへの対策

私がふだんの授業で学生に指導している対策として次のようなことがあげられる。

まず英語と直接関係のないほうからのべる。新聞記事の内容は実に多種多様で、その記事の **background** を知っているかいないかは、その記事の内容理解の大きなカギとなることはいうまでもない。アメリカの大統領選挙、ドイツの戦後処理問題、日本と中国との関係、サッカーの試合経過など、**background** を知っているかどうかでその理解度には大きな差が生じる。私が学生に授業で与える記事は時間をかけて慎重にえらぶが、その際、**background** の知識をまったく必要としないものや、おそらく学生のほとんどが **background** を知っているであろうと考えられるものも当然ふくまれるものの、意識して **background** の知識の有無をためす記事も与えて、その反応をたしかめる。必要なら私のほうから適切な解説をくわえることもある。ふだんから世の中の動きには関心をもちつづけるようにと授業でくりかえしていることが一定の効果をもたらしているようだ。

第2に、なれの問題がある。いくら理論を学生にわかりやすいように整理して教えても実例に多くふれないことには理解は深まらない。スポーツの練習でもおなじことがいえる。日常の授業での私の口ぐせである。

以下に英語にかかわる事柄をしるす。一番大切なことは見出しの約束を知ることである。学生がまちがえやすいので私が授業でとくに強調するのは見出しの **be** 動詞の省略で、これはおなじ省略といっても冠詞や前置詞とはちがい、さまざまな問題をはらむ。受身の **be** 動詞が省略されると、過去と過去分詞のかたちがおなじ動詞の場合、過去分詞形を過去形と誤解してしまうおそれがあるというのはその1例にすぎない。見出しの理解を助けてくれる事柄は見出しの約束以外にもある。1つは **context** の重要性で、いくつかの意味をもつ単語が見出しに使われている場合、どんな単語といっしょに使われているかに注意をはらわせることがその見出しの理解に役立つ。**background** の知識があればさらによい。リードや大きな字の下に書かれた小さな字の見出しも理解の手助けになることを私は授業でくりかえし強調する。

## 見出しの困難さの教育的意義

このような教材を授業でとりあげることによってどんな教育的な意義があるだろうか。

まず強調しておかなければならないことは、人間が使うことばというものにはどうしても意味のとりにくさやあいまいさがつきまとうものであることを自覚させるという点で、これは英字新聞のむずかしいあるいはあいまいな見出しが学生にとって反面教師の役割を演じることを意味する。すなわち、このような実例をとりあげて意味のとりにくさやあいまいさを分析し、英語を使うときには相手をとまどわせるような、もしくは誤解を与えそうな表現はさけるよう注意をうながすのである。

学校での英会話や英作文の意味のとりにくさ、あいまいさが実害をもたらすことはまずありえないが、これが実社会に出て実務の話になると深刻な被害をもたらすおそれがある。わかりやすくてっとりばやい例をあげれば、商取引などで金額や日付にあいまいさ、つまりどちらの意味にもとれる表現は絶対にささなければならぬのである。実社会にまだ出ていない学生には実感をとまわらないであろうが、実社会に出たあとのきびしさ、うっかりした不注意や過失がもたらす影響への警告として英字新聞の見出しのもつ意味のとりにくさ、あいまいさを活用することが可能であろう。私はまだこのことについての理論化はできていないが、おもしろいテーマであるのでいずれとりくみたいものと考えている。

学生に英語のもつ柔軟性を感じさせるには英字新聞の見出しは最適である。もちろんそこに用いられている表現をそのまま用いることについては慎重でなければならないが、端的にそれがあらわれるのが品詞の転換であり、ほかのヨーロッパの言語と比較させれば一層興味ぶかいであろう。簡潔な表現も英語のとくいとするとところで、英字新聞の見出しはその宝庫といってよい。フランス語やスペイン語なら前置詞の *de* を用いて名詞をつなげるところを、英語の場合は名詞をいくつかならべるだけでいいのである。略語や短縮形も簡略語法の代

表である。もっといえば、学生は英字新聞の見出しを注意ぶかく読むことにより世界中で使われている英語がこれから歩いていくであろう道筋をかいまみる思いがするかもしれない。英字新聞はその時代の英語のもっともあたらしい表現をすくいにとって私たちに示してくれるという意味で英語学科の学生にはすぐれた教材であると私は考えている。

## 参考文献

- G. H. Vallins 四方田敏訳 1987『理想の英語』文化書房博文社  
後藤正紘 2000『曖昧性をめぐって－英語の本質の解明－』英宝社  
中尾俊夫著 児島修・寺島迪子編 2003『変化する英語』ひつじ書房  
エルンスト・ライズィ著 大島昭夫・野入逸彦訳 1987『現代英語－その特徴と諸問題－』山口書店